

# 夏に読む本 2022

## 先生からの推薦図書

中高図書館



<https://web.d-library.jp/mori>

※電子図書館はこちらから

図書館では、「夏に読む本」として、先生方からみなさんへ、おすすめの本（推薦図書）をあげて頂きました。先生方からの選りすぐりの本を、この夏休みに是非読んでみてください。

（☆中学生向き ★高校生向きです）

### 数学 南雲あき先生のおすすめ本

#### ☆『そして、バトンは渡された』瀬尾まいこ 文藝春秋

映画化もされた作品なので知っている人も多いと思います。主人公の優子には父三人、母が二人います。複雑な生い立ちですが、とても前向きな優子が魅力的です。優子の結婚が決まったことがきっかけで親たちの想いを知ることになります。人と人との優しい繋がりを感じる作品です。

#### ★『愛なき世界』三浦しをん 中央公論新社

タイトルとは真逆の、ある意味「愛に溢れる世界」を描いた物語です。国立T大のすぐ近くにある洋食屋の住み込み店員の青年とお店の常連であるT大研究室の人々との交流を描いた作品です。特に理系の生徒におすすめです。研究室に人たちの植物への愛の深さを感じます。

### 英語 渡辺京子先生のおすすめ本

#### ☆☆『眠れないほどおもしろい 吾妻鏡』板野博行 三笠書房

皆さんは日曜20時からやっているNHKの大河ドラマを見ていますか？

今年は三谷幸喜監督による「鎌倉殿の十三人」です。武士による政治を初めて行った「鎌倉幕府」を開いた源頼朝から、そのノウハウのすべてを学んだ北条義時の生涯が描かれています。

この本のタイトルにある「吾妻鏡」とは北条氏が脚色した鎌倉幕府の「公式レポート」です。

原文は難しいので現代語訳をはじめは買いました。でもそれも難しくて、読んでいると寝てしまう…そこでもっとわかりやすく書いてくれているものはないかな、と探しました。そうして見つけたのがこの本です。写真や漫画も使いながら書いてあるので、とっても面白く読めます。中世のことはまだまだわからないことが多いようですが、だからこそとても面白いです。私は町田市に遺る鎌倉古道を探索するのが大好きなので、吾妻鏡のことをもっと深く知って、また鎌倉古道を歩いてみようと思います。

### 理科 中村 海先生のおすすめ本

#### ☆☆『13歳からの地政学』 田中孝幸 東洋経済新報社

感染症の蔓延や世界情勢の悪化、そして円安と、私たちを取り巻く環境は日々変わり続けています。そんな“世界”の詳しい仕組みや、成り立ちがわかる本です。（僕自身も知らないことばかりでした）これからは嫌でも世界を舞台に活躍せざるを得ない時代がやってくると思います。文系の皆さんはもちろん、理系の皆さんにもぜひ読んで欲しい本です。

### 地歴公民 大木崇先生のおすすめ本

☆『世界史リブレット』 山川出版社 シリーズものなので、各界の第一人者がそれぞれ執筆していらっしゃいます。うすい、分かり易い、最新の研究動向が紹介されている！世界史の入門編にピッタリ！！

★『史記』 原作はご存知司馬遷 いろんな出版社から訳がでています。

恐らくこの文章を読んでいるのは高2の世界史選択者でしょう。だったら授業で「推し」だったこの本に余計な説明は不要でしょう。ホンモノの魅力をご堪能あれ！

### 情報科 高田昌輝先生のおすすめ本

#### ☆『青少年のための小説入門』 久保寺 健彦 集英社

夏に向いているかは分かりません。心に傷を負った者が小説家を目指す、青春創作小説です。夏にどんな本を読むのか迷っている方は、まずはこちらから。

#### ★『夏への扉』 ロバート・A・ハインライン

夏のおすすめ本とするならば、この一冊。初版が1956年に発売された。1956年と言えば、確かIBM社がHDDを世界で初めて発売した年だ。つべこべ言わずにこの本を手にするが吉。

### 理科 三枝優輝先生のおすすめ

#### ☆『なぜ、いま思考力が必要なのか？』 池上彰 講談社+α新書

ろくに考えもせずに「別にいいや」と試してみたり、周りに流されたりする怖さがよくわかります。社会学がメインの軸となっていますが、わかりやすいニュースを例に挙げているのでとても取っ掛かりやすいと思います。

#### ★『書ける人だけが手にするもの』 齋藤孝 SB新書

自戒を込めて言いますが、文章が書けない理系は理系失格です。文章が書けないと損をするし、書けることで得をします。非常に分かりやすく解説してあるので、ぜひ読んでみてください。

## 社会 池畠麻生先生のおすすめ本

### ☆☆『ファシズムの教室』 田野大輔 大月書店

皆さんの中には、大人数での登下校時、つい楽しくなって周りが見えなくなり地域の方から苦情を受けてしまう…といった経験を持つ人もいるかもしれません。なぜ一人の時や少人数の時には起こらないことが、集団になると起きてしまうのでしょうか？この本では、現職の大学教授である著者が大学生たちとともに授業内で「実験」を行い、集団になることが人間の心理状態にどのような影響を与えるのか検討していきます。例えば、大学のキャンパス内で仲良くしているカップルを集団で取り囲み、「リア充爆発しろ！」と罵倒するのです。そんな実験を繰り返していくと、被験者の大学生たちの内面ではどんどん他人への攻撃的な言動への抵抗感が薄れていきます。彼らはそんな自分たちの変化をどう受け止めるのか…？ 高校生も有権者になる時代にこそ、多くの中高生に手に取ってほしい一冊です。

すごく読みやすいですよ。

## 養護 南雲由美子先生のおすすめ本

### ☆☆『ガールズ・ビー・アンビシャス』 集英社インターナショナル（編） 集英社

おすすめする対象は、中高、男女問わず

20人ほどの様々な分野で活躍する女性たちの、主にスピーチを掲載した本。

よく名前を聞く方も、全く知らない方もいるけれど、そこで語られるシンプルな統計や事実は自分の無知と、関心を持つ世界がいかに狭いかを痛感させられる。題名は少女たちへ向けてのメッセージのようであるが、困難を抱える人すべてに通じるエール集でもあると思う。あなたの困難は今まで意識していなかった多くの仲間の困難であり、あなたが幸せになるためには仲間との連帯が必要で、それが可能性を大きく広げる。苦しい時こそ広い視点を持ってそれを思い出して、と背中を押してもらえる本。

## 国語 花村友美子先生のおすすめ本

### ☆☆『サバンナで野生動物を守る』 沢田俊子著 講談社

南アフリカで、サファリガイドとして働く日本人女性、太田ゆかさん。政府公認の日本人女性として、ただ一人だそうです。太田さんは、森村学園の卒業生なのです！サファリガイドの仕事は？どうしたらサファリガイドになれるの？サバンナでの暮らしは？野生動物を取り巻く社会問題もみえてきます。卒業生の活躍ぶりを是非知って欲しいと思います。

（推薦文・司書）

## 社会科 岡田康彦先生のおすすめ本

### ☆『三国志』吉川英治著(吉川英治歴史時代文庫) 講談社

自分が中高生るとき、何を読んでいたかなあと記憶を掘り起こしてみても、真っ先に思い出したのがこの小説でした。魅力的な登場人物の数々、グッと手に汗握る波乱の展開に、なげなしのお小遣いで全巻揃え、学校への行き帰りや寝る時間を惜しんで夢中になって読んでいたのを思い出しました。

### ★『イスラームの「英雄」 サラディン——十字軍と戦った男』 佐藤次高著 講談社

大学で西南アジア史学なんていう専攻を選んだのは、高校生の時に佐藤次高先生の、「新書イスラームの世界史」3部作を読み、その世界に魅了されたからでした。(それらは今お勧めするには古すぎる…) 同じ先生による、「英雄」サラディンや当時のイスラーム社会の姿を描く本書には、それらが冷静かつ客観的な文献に基づく記述であるはずにも関わらず、なぜかずっと魅了され、遠い異国のはるか昔の世界に飲み込まれていってしまいます。

## 地歴公民科 多胡遥南先生のおすすめ本

### ☆『ぼくらの時代の罪と罰-きみが選んだ死刑のスイッチ』 森達也

ミツイパブリッシング

死刑制度というテーマが切り口ですが、そのテーマのみではなく知ることの大切さ、民主主義とは何かなど多岐に渡ることを提言しており、少し難しい内容も分かりやすく丁寧に書かれている本です。全てにルビがついていますし、どの学年でも読むことができますと思います。社会に生きる上で大切な原則が詰まった本です！全力でおすすめします！

### ★『海の帝国—アジアをどう考えるか』 白石隆 中公新書

アジアを歴史的に生成、発展、成熟、崩壊する1つの地域システムとして捉え、アジアの成り立ちと、そこにおける日本の位置を論じている本です。特に東南アジアの国々がどう成立し今に至るのかを学ぶことができ、大変興味深いです。ぜひ「民族」とは何か、「国」とは何かを考える上で手に取ってほしいですが、世界史の用語も色々出てくるので少し読むには難しい本かもしれません。

## 先生からのおすすめ本

☆『数の悪魔～算数・数学が楽しくなる12夜』エンツェンスベルガー  
晶文社

数の不思議を楽しく表現した一冊です。中1・2生にどうぞ。

★『三体（三部作）（三体・黒暗森林（上・下）・死神永世（上・下））』

劉慈欣（リウ・ツーシン） 早川書房

文化大革命のある日の描写から始まる。が、単なる歴史小説ではない。近未来を予想した壮大なSF小説。高3生には勧めない。勉強が手につかなくなる。シリーズ全5巻、約2500ページは読み応えあり。元米大統領オバマ氏が”次の訳本はまだできないのか！”とホワイトハウスで叫んだとか、叫ばなかったとか。歴史と科学と宇宙と人間が好きな人は是非どうぞ。

☆『ソロモンの指環～動物行動学入門』コンラート・ロレンツ 早川書房

動物行動学を打ち立てノーベル賞に輝いたロレンツ博士の観察記録。インプリンティングという理論を展開したきっかけ。動物観察に興味のある人に最適。森村図書館にあります。

★『プラハの春』『ウィーンの冬』『ベルリンの秋』 春江一也 集英社インターナショナル

プラハの春第一報を日本に送信した、現役外務官の実体験に基づく書下ろし小説。虚実交えながらの、緊張下の様子を読み取ってください。森村図書館にあります。

## 中高図書館 司書 石松江美のおすすめ本

☆☆『コミュニケーション力を高めるプレゼン・発表術』上坂博亨ほか  
岩波ジュニア新書

社会で活躍するために。大学、そして社会に出てからも必要な1冊。中高で、一度は手に取って読んでおこう。

☆☆『大人は知らない 今ない仕事図鑑100』澤井智毅監修 講談社

社会で活躍しているひとたちの、自分の仕事の見つけ方についての体験談は、「将来の仕事」を考えるためのきっかけになります。

ここに紹介した本は、中高図書館（一部、電子図書館にも）の<先生がたのおすすめコーナー>にまとめています。